

# 会報

No. **120**

令和4(2022).3.1

## 加古川市立加古川図書館リニューアルオープン

加古川市立加古川図書館 館長 たるもと 樽本 ほづき 葉月

旧加古川図書館は、1971年4月1日に旧加古川公会堂を加古川市立図書館として開館、2006年の組織改編により加古川市立加古川図書館と名称を変え、開館50周年を迎えた2021年に移転のため閉館となりました。その建物は、2008年度（平成20年度）に兵庫県の景観形成重要建造物に指定され、閉館前には多くのファンがつめかけ別れを惜しんでいました。現在も約5万冊を保管し、旧館書庫として使用しています。

2021年10月1日、加古川市の中心市街地におけるにぎわいの拠点の1つとして、加古川図書館はJR加古川駅前の商業施設内の6階に移転、オープンしました。この度の移転・開館に合わせ、当館の管理運営は指定管理者が行うことになりました。コロナ禍での開館となったことから、開館から3日間は入場整理券を発行し、1時間ごとの完全入れ替え制としました。商業施設内の同じフロアには大型書店、7階には「加古川駅南子育てプラザ」、「かこがわ将棋プラザ」があり、各所との連携事業を通じての地域活性化が期待されています。



〈図書館入口〉

オープニングイベントとして、「市長のほんだな」と銘打ち、「進路に悩んでいる方へ」をテーマに選書した市長おすすめの私物本を館内入口のガラスケースに展示しました。約1か月の展示期間後も「市長の本はどこですか？」とお問い合わせを受けるなど、楽しみにご覧いただけたのではないかと考えています。

「かこがわ将棋プラザ」との連携イベントでは「井上慶太九段と船江恒平六段のふたりトークショー」と指導対局を、紀伊國屋書店加古川店とは、連携展示「本でおなかいっぱいになろう！秋のフェア」をそれぞれ開催し、多くの方のご参加とご利用がありました。現在は、「加古川駅南子育てプラザ」との連携講座「ママ講座」で保護者向けの読み聞かせ講座や商業施設とのコラボイベントの準備を進めています。

施設面の新しいサービスとしては、JR加古川駅を利用するビジネスマンや、駅周辺の学校や学習塾に通う中高生などに向けて学習・ワークスペースを充実させました。約140席ある学習席には座席予約システムを導入し、スマホやタブレットなどから予約をして利用することができます。学習席を利用するためには図書館カードが必要なことから、学生世代の利用登録者数が、当館では前年度比2.4倍に、市内全館においても1.4倍になりました。オープン前に5日間の事前登録会を行い1,000人近い方に図書館カードを発行しました。さらにオープン後は旧館での約1年分に当たる約4,000人の登録がありました。

低書架で見通しのよい館内には104,000冊を所蔵しており、コーヒーを飲みながらゆったりと読書を楽しむことができます。また、時間とスペースに制限はありますが、食事も可能です。市内で初めてICタグを導入し、自動貸出機での貸出が可能になりました。館内には公衆無線LANを整備しており、この無線LANが接続できる範囲内では「flier（フライヤー）」が利用できます。flierは、厳選されたビジネス書や教養書を約10分で読むことができる要約サービスです。日曜祝日の閉館時間を18時から19時まで1時間延長、月に2日あった休館日は第4月曜日の1日だけとし、利便性の向上を図りました。提携駐車場をご利用の場合は、駐車券と図書館カードのご提示により1時間無料のサービス券を発行しています。



〈明るい館内〉

全国的にも商業施設内の図書館は珍しくなくなってきましたが、同じフロアに図書館と書店だけという事例はまだまだ少ないようです。図書館移転後は、6階全体がゆったりとした読書空間となっています。お買い物ついでにぜひ一度お立ち寄りください。

## 養父市立図書館が開館しました！

養父市立図書館 館長 田村 典嗣 たむら のりつぐ

今まで県内で唯一市立図書館のなかった養父市に、ついに市民待望の図書館が9月14日にオープンしました。

養父市立図書館は、「人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点」を基本理念として、旧八鹿グンゼ跡地に建てられた複合施設『やぶ市民交流広場（愛称 YB ファブ）』の一施設として開館しました。敷地面積約25,328㎡の広大な施設には、図書館棟とホール棟、芝生広場があり、施設内にある部屋は、公民館施設としても利用しています。2つの棟の間を通る小路の先の高台には但馬聖人と呼ばれた儒学者 池田草庵先生が建てた漢学塾「立誠舎」が見えます。ここは、のちに青谿書院に移転し、第3代京都府知事の北垣国道や東京帝国大総長の浜尾新らを始め、多くの著名人を輩出しています。



〈養父市立図書館〉

図書館棟は、延床面積約870㎡で、蔵書可能数も約42,000冊（現蔵書数は約26,000冊）と小規模の図書館ですが、3方がガラス張りの館内は明るく開放的な施設になっています。内部は壁面に地元産の木材が使われ、氷ノ山の稜線をイメージした山型の書架が3方に分かれた配置になっています。書架の間には椅子型クッションが置いてあり、ゆったりと座って読書をされる方も見かけます。

図書館になって、前の公民館図書室と比べて利便性の向上を図り、サービス面も改善されました。

まず、開館時間が今まで9時から17時まででしたが、9時から20時までと3時間長くなり、仕事帰りや公民館の利用ついでに本を借りたり返したりできるようになりました。また、借りられる本の冊数も今までの5冊から10冊に増え（貸出期間は2週間）、市内利用者だけでなく但馬在住の方ならだれでも利用者カードを作ってご利用いただけるようになりました。

そのほか、Wi-Fi環境を整えたり、ヤングアダルトコーナーや読み聞かせスペースを設けたりしました。さらに、CD仕様の資料や洋書の本も今後増やし、様々な方に利用していただけるようにしています。

養父市立図書館本館から遠い市内の方も今まで通り、市内にある3つの分館で本の予約や受け取り・返却ができます。また、OPACを設置し、検索や予約が自分のできるほか、すべての蔵書をICタグで管理することで蔵書管理のスピード化を図ったり、セルフ貸出装置を設置して貸し出しのスピードアップ化を図ったりしています。

図書館と言えば、静かに本を読み、声も出せない施設というイメージですが、小さなお子さんも気兼ねなく利用できるよう、館内はエントランスを挟んで一般書架と児童書・絵本書架が左右に分かれ、音の区画化がされています。児童書・絵本側の端のキンダールームでは、靴を脱いでゆっくり読み聞かせをしていただけるようになっています。一般書側の窓際には、カウンター席が19席あり、閲覧のほか、高校生等が学習の場としても利用しています。また、図書館棟には小会議室や和室があり、部屋の使用がない時には、閲覧室、学習室、休憩室として利用者に開放しています。



〈一般閲覧室〉

現在は、コロナ禍でなかなかイベントが開催できない状態ですが、今後少しずつイベントを開催し、より多くの方に新図書館に足を運んでいただけるようにしていきたいと思います。今後も“知の拠点、文化の拠点”として、多くの方に利用していただき、市民に愛される施設を目指してまいります。



## 来フアリ~

## 私と図書館

三田市立図書館ウッディタウン分館 おはら ゆり  
小原 百合

三田市に引っ越してきて、できたばかりの図書館に足しげく通うようになりました。小説や子どものための絵本、児童書などを借りて図書館は私の生活と共にありました。カウンターの外から見る司書さんは落ち着いていて、たくさん本をてきぱきとさばっている姿は大変輝いて見えました。私は大学時代司書の資格を取らなかったことを後悔していましたが、ここで働きたいとの思いが強くなり、思い切って資格を取得し今に至ります。

あるとき、私の大好きをおすすめしようと児童の担当をしているとき、絵本の全ての面出しに自分の好きな絵本を並べてみました。その景色を見たときのうれしさが仕事の原動力な気がします。今はカウンターの中でレファレンスや貸出、返却など行っていますが、新人の頃は先輩方の知識の多さや深さに感心し、装備や修理の技術の細やかさに驚かされました。仕事について10年目、私も先輩方に少しは近づくことはできたでしょうか。

図書館の仕事は幅広く奥深く、日々知識を増やす意識が必要となります。その知識を生かして利用者さんへ丁寧にご案内できるよう努めていきたいと考えています。初出勤の日、入口の扉の前に立った時の緊張感を今でも覚えています。その気持ちを忘れず毎日カウンターに立てることの喜びをかみしめていきたいです。

## 雑感

加東市中央図書館 たなか みきこ  
田中 美紀子

加東市には平成18年の合併直後に4館の図書館がありました。現在は中学校区(旧町)に1館、計3館の図書館があります。小規模館1館、中規模館2館体制で運営しています。合併前には小規模館に勤めていたので、利用者のリクエストやレファレンスに応えられず、もどかしい思いをしていましたが、合併後に市内他館の資料を取り寄せ、利用者をあまりお待たせせずに提供できるようになったのは喜ばしいことでした。

私が図書館の仕事に興味を持ったのは、小学生高学年の頃でした。当時は地域の図書館が無く、学校図書室で本を借りては授業の合間や家で読んでいました。小中高と図書委員を務め、地元の図書館に就職しました。

結婚して兵庫県に来ましたが、幸いにも図書館の仕事が続けられることになりました。小さな図書館だったので何でもしなくてはなりません。とにかく子どもたちに来てもらいたいと、おはなし会を立ち上げ、読み聞かせボランティアとともに活動しました。小規模館ならではの利用者との距離を大切にしていたのですが、現在では直接子どもに関わることが少なくなってきているのがとても寂しいです。

あと数年の図書館人生を有意義なものにしたいと考えています。

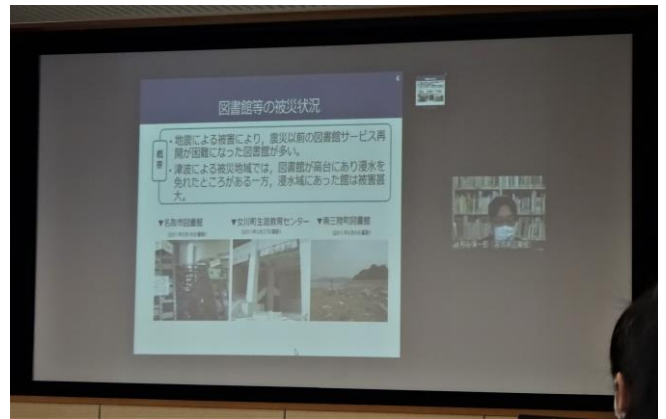
## 第1回研究集会報告

テーマ：東日本大震災から10年 復興の軌跡とこれから

開催日：令和4(2022)年1月14日(金)  
13時30分~15時00分

会場：川西市立中央図書館 視聴覚室

講師：熊谷 慎一郎 氏(宮城県図書館司書  
日本図書館協会災害対策委員会委員)



阪神淡路大震災から27年目、あの1月17日を3日後に控える日に、宮城県図書館で、東日本大震災からの復旧・復興活動に携われた熊谷慎一郎さんをお招きし、オンラインでご講演いただきました。

ちょうど10年前、熊谷さんには、同じ兵庫県図書館協会研究会で「東日本大震災と図書館」をテーマにお話をいただきました。当時は東日本大震災から1年を経過したところで、とても印象に残る講演会でした。今回、開催事務担当となった時に「この10年間の東北の図書館の活動を是非に聞かせていただきたい。」と強く思いお招きしました。

宮城県図書館は、被災した図書館の個々の状況が異なる中、それぞれに対応した直接的な支援をするために図書館運営に絞った支援を行ってきたとのこと。被災状況の把握や復興計画を立てるなど、人の役割がいかに大きいかを知りました。

いまひとつ気づかされたことは、震災関連資料の保存について、後世に活かせる形で保存することの大切さでした。宮城県図書館は、「東日本大震災アーカイブ宮城」を作成しましたが、これをもとに防災ビデオ「eラーニング風!防災ワークショップ」が作られました。被災時の活動を正解のない選択肢中から選ぶというもので、類似のビデオにはない深く考えさせられるものでした。

最後に、被災したら可能な限り復旧にかかる時間を短くすること、地域の情報拠点として復旧復興活動を支援することで、図書館の機能・役割の社会的な共有を目指すことが必要と説かれました。

折しもコロナ禍の渦中です。災害の種類は違いますが、阪神淡路大震災当時と同じ社会は危機に瀕しています。災害に直面した時、図書館はなにができるのか、研究集会の後、改めて考えてみたいと思いました。

(川西市立中央図書館 館長 藤本 昭彦)

## 兵庫県内図書館の動き 令和3(2021)年1月～12月

・兵庫県立図書館  
「ふるさとひょうごデジタル・ライブラリー」開始(3月)／マイナンバーカードと利用カードの連携開始(7/1)

・神戸市立図書館  
「神戸市電子図書館」本格導入(1/5)／名谷図書館開館(3/24)

・尼崎市立図書館  
「あまがさき電子図書館」開始(7/1)

・西宮市立図書館  
ICタグを活用した蔵書管理システムの導入(3月)／自動貸出機設置(3月)／教育委員会から市長事務部局への移管(4/1)

・川西市立図書館  
公衆無線LAN(Wi-Fi)導入(2/1)／開館30周年記念行事で『川西むかしむかし』発行、記念クリアファイル作成・配布(4/12)／開館30周年記念行事で『川西むかしむかし』の原画展(10/27～11/8)／開館30周年記念行事で作文「わたしの川西むかしむかし」募集(10/1～12/31)

・猪名川町立図書館  
有料郵送貸出サービス開始(7/1)／インターネットからのレファレンス申込受付サービス開始(7/1)

・明石市立図書館  
開館時間の変更(4/1)／春の読書週間「わくわくサファリ図書館」と題して、各種行事を実施(4/24)／秋の読書月間「本の深み」と題して、各種行事を実施(10/20)／ADEAC(デジタルアーカイブシステム)に「明石型生船調査資料集・生船写真帖」を追加掲載(1/5)

・高砂市立図書館  
ホームページ刷新(6/14)

・三木市立図書館  
青山図書館10周年、中央図書館5周年開館記念事業(「長谷川義史さん絵本ライブ」)(2/27)

・小野市立図書館  
図書除菌機LIVA設置(5/14)

・加西市立図書館  
自動貸出機等設置(3/1)

・加東市立図書館  
施設改修工事(照明のLED化、エレベーター改修、トイレ洋式化、授乳室増)(6/3～12/17)

・姫路市立図書館  
城内図書館が電気設備等改修工事終了により再開館(7/1)／青山分館・手柄分館の改修工事のため長期休館中(7/1～)／図書館のホームページをリニューアル(10/1)／国立国会図書館の視覚障害者等用データの収集事業にデータ提供館として参加(11/18)

・たつの市立図書館  
図書除菌機の設置(1/16)／図書館システム(読書推進サービス)をリニューアル(7/30)／マイナンバーカードと図書館貸出券の連携対応開始(10/1)

・赤穂市立図書館  
関西福祉大学図書館との共同企画展示「おすすめえほん」の展示(4/13～6/13)／定住自立圏域貸出業務開始(試行)(10/1～)

市制施行70周年・図書館開館20周年記念事業「世界の子どもの本展」の開催(10/29～11/7)／同上関連事業「読書講演会」講師：鳥式子氏(11/6)／関連図書展示「赤穂義士・忠臣蔵特集」の展示(11/26～12/26)

・上郡町立図書館  
東備西播定住自立圏 子ども読書の日共同展示開催(4/13～)／新電話機設置(6/9～)／男女共同参画週間展示(6/23)

・いちかわ図書館  
開館20周年記念事業「角笛シルエット劇場」上演(11/14)／空調設備の改修、照明のLED化(～3/31)

・太子町立図書館  
ちいちゃい秋まつり・ひと箱市(11/3)

・佐用町立図書館  
三日月図書室リニューアルオープン(4/1)

・新温泉町立加藤文太郎記念図書館  
夏休みプログラミング教室(7/23)／一日図書館員体験(7/24)／図書館まつり事業(1)「劇団どんぐり マリオネット公演」(10/9)(2)「絵本作家講演会 絵本作家・木村研」(10/24)(3)「木村研さんと遊ぼう 親子でおもちゃ作り」(10/24)(4)「リピート山中トークライブ」(10/30)

・朝来市和田山図書館  
利用者用公衆無線LAN(Wi-Fi)開始(7/1)／授乳室設置(11月)

・丹波篠山市立図書館  
市民センター図書コーナーについて、ボランティア主体の運営から中央図書館主体の運営に変更(4/1～)／令和3年度中央図書館講演会「本で子どもの育ちを応援しよう」(12/19)

・丹波市立図書館  
マイナンバーカード連携サービス開始(11/23)

・淡路市立図書館  
雑誌スポンサー募集開始(1/1)／読書通帳事業開始(3/28)／サピエ図書館利用サービス開始(10/1)

・養父市立図書館  
ICタグによる貸出機・自動貸出機の導入(3/1)／図書館開館(9/14)／貸出冊数改訂(5冊→10冊)、開館時間変更(本館 9:00～17:00→9:00～20:00、養父分館 9:00～22:00→9:00～20:00)、休館日変更(本館 水曜休館→月曜休館、ただし月曜が祝祭日の場合開館し、翌火曜休館)(9/14)

・ひょうご労働図書館  
兵庫県中央労働センターロビーに雑誌閲覧コーナーを開設(8/11)／労働問題講演会開催(7/27:オンライン、9/27、12/10:オンライン)

内容については、「図書館年鑑 2022年」編集に係る各加盟館からの情報提供を一部抜粋しました。

兵庫県図書館協会会報 No.120  
令和4(2022)年3月1日発行  
編集・発行：兵庫県図書館協会  
〒673-8533 明石市明石公園1-27  
兵庫県立図書館内  
Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500